

需要蒸発 長期戦を覚悟

コロナ 疲弊する地方 2

迫真
HAKUSHIN

「いんないことになる」とは全く予想できなかった」。結婚式場を運営する子会社と共に4月下旬、民事再生法の適用を申請し、監督命令を受けたラビアンローゼ。12日、浜松市の本社前で社員の一人が肩を落とした。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で今春以降、卒業式向けの着物の予約は軒並みキャンセル。結婚式や新婚旅行の延期・中止も相次ぎ、資金繰りが急速に悪化した。負債総額は計33億円。社長の矢崎隆世は「全ての関係者に本当に申し訳ないと頭を下げる。

東京商工リサーチによると、新型コロナウイルス関連の経営破綻は全国ですでに150件に達した。感染拡大が需要を蒸発させ、地域経済の活力を奪つ。

「大手下請けはまだ耐えられませんが、ティア2（2次下請け）以下は厳しくなるだろう」。欧米での需要減を受けて3月末から生産調整を開始したマツダ。大手部品会社の幹部の一人は心配の色を隠せない。生産が6割



出羽紙器製作所は飛沫感染を防ぐパーテーションを製品化した

減った2次下請けでは、工場で働く350人のうち半分以上の賃金を補償しつつ、休ませた。自動車業界は裾野が広いだけに影響は甚大だ。大阪府東大阪市に本社を置く金属線の加工会社では自動車向けの売上高が5月、5割減まで悪化した。「リ

ーマン・ショックの時は元の状況に戻るまで2年かかった。コロナも長期戦になるかもしれない」

終息への道のりが見通せない中、既存事業の技術を生かして新型コロナウイルス対策品を生み出すなど、前を向く中小も少なくない。国内最大の手袋の産地、香川県東かがわ市。フクシンは手袋の縫製技術を生かしたマスクなど5つを商品化した。クラウドファンディングで集まった金額は目標額の8倍を超え、夏用マスクの検討も進める。

段ボール会社の出羽紙器製作所（東京・板橋）は飛沫感染を防ぐ段ボール製パーテーションを4月中旬に発売した。金融機関など約1700カ所を導入されたほか、約100カ所に寄贈した。きっかけは鳥取県庁での段ボールを使った感染防止策を知ったこと。「これ、やっし」。社長の小林正臣が社内感染を防ぐために指示。満足のいく出来栄えに、自社だけではもったいないと金融機関に提案したところ一気に広まった。

製品の損益はトントンで、もうけるつもりはない。経済活動が正常化すれば、いずれ需要も回復する。小林は言い切る。「稼ぐのはその時だ」（敬称略）